



條約ノ法律ノ關係

祕

外務大臣



114
A 2572



○甲

治廿七年第六回議會ニ於テ衆議院ハ左

ヲ為セリ

條約ノ締結ハ天皇ノ大権ニ屬スト雖モコレ

力為メ新クニ法律ノ設定ヲ要シ又ハ法律ニ

變更ヲ生ズルキ事項及租税ノ賦課變更ニ關

スル事項ハ憲法第五條第三十七條第六十二

條及第六十三條ノ成立ニ由リ當然帝國議會

ノ決議ヲ經ハキモノトス茲ニ之ヲ決議ス

衆議院ノ以テ決議ヲ為シタル以來條約ト法律

トノ關係ニ付テ世議稍ク囂シク唯新聞紙雜誌
等ニ於テ之ヲ論議スルノミナラス亦學者政治
家社會ノ一大問題トナルニ至レリ而シテ其ノ
論スル所ヲ聞クニ概ネ條約ハ君主ノ締結スル
所ニシテ臣民ハ之ニ由テ羈束ヲ受クルコトナ
シ臣民ノ權利義務ハ法律ニ依ルニ非サレハ成
立セズ故ニ條約ハ法律ヲ以テ執行スルニ非サ
レハ内國ニ於テ其ノ効力ヲ生スルコトナシト
云フニ在リ此等ノ議論ハ歐洲諸國ニ於テ夙ニ
其ノ是非ヲ争フ所ニシテ紛々未タ決セズ但歐

洲各國ノ憲法ハ大抵君主ノ條約締結權ニ制限
ヲ付シ通商航海條約ノ如キハ概ネ議會ノ同意
ヲホメサルハカラスト為スカ故ニ公法學者ノ
多數ハ立法ノ行為ヲ以テ條約ノ効力上必要ノ
條件ト為ス者多シ
夫レ條約ハ他ノ契約ト均シク主權者相互ノ懷
同ニ依リテ權利及義務ヲ構成ス而シテ君主ノ
條約ヲ締結スルヤ國家ノ元首トシテ憲法上ノ
大權ニ本キ莫ノ臣民ノ權利及義務ヲ決定スル
モノニシテ君主一個人ノ意思ニ由ルニ非サル

ナリ即チ條約ハ國家ノ代表者トシテ君主ノ締結スルモノナルヲ以テ其ノ核定スル所ハ隨テ國土及臣民ニ權利ヲ生シ義務ヲ負帶セシム國家ハ自ラ意思ヲ表發スル能ハス必ス其ノ代表者ニ依ラサルヘカラス代表者既ニ憲法ノ大權ニ由テ其ノ他衝的ナルト自衝的ナルトニ關セス一ノ條約ヲ核定スルトキハ此ニ由テ生スル所ノ權利義務ハ又隨テ國家ノ各機關ニ普及ス若シ條約ハ君主ヲ羈束スルニ止マリ法律ヲ以テ執行スルニ非サ

レハ國家及臣民ヲ羈束セスト為サハ憲法上條約ノ大權ハ將テ何ニ由テ成立セシム乎何トナレハ此ノ如キ條約ハ君主ノ代表權ニ由テ生スル權義ニ非スシテ君主一個ノ權義ニ止マレハナリ且ツ條約ハ公法ニ本キ國家ノ間ニ締結シタルニ拘ハラス又其ノ代表者タル元首ノ之ヲ核定シタルニ關セズ國法上ノ効力ナキモノトスルトキハ條約ハ遂ニ成立スル能ハサレナリ故ニ條約ヲ締結スル權能アル機關ニシテ義務ヲ負帶スルト同時ニ國家ノ義務亦之ニ由テ生

不猶ホ法律ハ君主ノ意思ニシテ又國家ノ意思
ナルカ如キナリ君主既ニ國家ノ代表權ニ依テ
條約ヲ締結シ坎ノ條約ニ由テ一ノ義務ヲ負帯
スルトキハ坎ノ君主ノ意思ハ即チ亦國家ノ意
思ナルヲ以テ隨テ國家ハ之カ羈束ヲ受ケサル
ヘカラス法律ハ君主ノ意思ナルカ如ク條約モ
亦憲法ノ大權ニ本テ發表シタル君主ノ意思ニ
外ナラス共ニ君主ノ意思ニシテ法律ハ國家ヲ
羈束スルモ條約ハ國家ヲ羈束セスト云ハ、君
主條約ノ大權ハ坎ニ至テ減セサルヲ得サルナ

リ
又條約ハ他ノ國家及一個人ニ對スル國家行為
ノ羈束ニ外ナラス而シテ坎ノ羈束ニ由テ生ス
ル所ノ義務ハ必ス國家ノ力ニ藉ルニ非サレハ
之ヲ遂行スルヲ得ス故ニ條約ハ坎ノ點ニ於テ
既ニ國際公法上ノ範圍ヲ去テ國法上ノ行為ニ
入ルモノナリ條約ノ明文ニ依リ一ノ規定ヲ承
認シタルトキハ坎ニ由テ國家ハ國際法上ノ規
定ヲ移シテ國法上ノ規定ト爲シタルモノニシ
テ對手國ニ對シテ其ノ施行ノ義務ヲ負ヒ隨テ

爾後之ヲ自國ノ法規ト認メサルヲ得ス彼ノ論者ノ言フカ如ク條約ハ國家元首間ノ義務ニ止マルモノニシテ直接又ハ間接ニ他ノ立法機關ノ承認ヲ得ルニ非サレハ國法上ノ行為ト爲スヲ得ストスルハ此レ國家統率ノ大權ヲ無視シ且ツ條約本來ノ性質ヲ解セサルモノナリ條約ノ執行ハ必ス立法ノ行為ヲ要ストハ此レ臣民一定ノ權利義務ハ法律ニ依ルニ非サレハ成立セスト云フノ憲章ニ本クニ外ナラス若シ我力憲法第十三條ニシテ歐洲諸國ノ如ク制限

ヲ付シ一定ノ條約ハ議會ノ核實ヲ經サルヲ得ストノ明文アラハ固ヨリ論者ノ言ヲ煩タスト
虽モ第十三條ハ明ニ絶對的ノ文字ヲ掲ケ條約ノ締結權ヲ以テ專ラ天皇ノ大權ニ假シタリ此レ我力帝國憲法第十三條ハ歐洲諸國ノ學ニ倣ハス固有ノ國體ニ本キ規定シタルモノニシテ條約締結權ト立法行為トノ間ニ起ル紛擾ヲ慮リ豫メ之ヲ防止セント欲スルニ在ルノミ且ツ今日ニ在テ改正條約ハ四五ノ國ヲ割ス外既ニ批准交換ヲ終ヘタリ故ニ縱令ヒ之ヲ爲シ法律

ニ變更ヲ及ホス事アリトスルモ更ニ之ヲ議會
ノ議決ニ付ヤントスルハ事實上復々為シ得ヘ
カウサルコトナリトス若シ夫レ歐洲公法學者
ノ間ニ在ラザルカ如キ君主ノ締結シタル
條約ハ議會ニ於テ必ス之ヲ承認セサルヘカウ
スト最モ法律ノ形式ニ依リ之ヲ施行セサルヘ
カトスト為ス力如キハ此レ議會核實ノ原理ニ
矛盾スルモノナリ議會ニシテ既ニ核實ノ權
アラハ又何ノ之ヲ否決スルノ權能ナカランヤ
此レ畢竟取ルニ足ラサル誤謬ノ論ト謂ハサル

ハカラス

〇乙

條約ハ兩國主權カ互ニ國家又ハ臣民ノ權義ヲ
協定シタル一種ノ法規ニシテ兩締約國相互ノ
間ニ共通ニ以テ一國法令ノ及ハサル境域ニ進
入シテ其効力ヲ保有スルモノナリ一國法令ノ
効力ハ國內ニ局限セラレテ域外ニ及ブモノニ
非サルカ故ニ他國ニ於テ其國又ハ其國民ニ對
シ自國又ハ自國臣民ノ權利ヲ有効ニ規定スル
コト能ハサルナリ故ニ他國ニ在テ自國又ハ自
國臣民ノ權利ハ其國立法權ノ隨意ニ規定スヘ

キ所ニシテ其地位タルヤ甚タ薄弱不安ナルモ
ノナリ是ニ於テ國法ノ力足ラサル所ヲ補ヒ相
互權義ノ在ル所ヲ明ニシ其地位ノ安固ヲ保タ
ンニハ兩國主權者ノ協定シタル共通ノ法則即
チ條約ノ力ニ依ラサルヘカラス故ニ條約ハ國
法ノ及ハサル所ヲ有効ニ規定スルモノニシテ
其目的ハ自國又ハ自國臣民ノ對手國ニ於ケル
權義準則ト爲スニ在リ條約ハ既ニ對手國ニ對
シ自國又ハ自國臣民ノ權義準則タルトキハ内
國ニ於テモ亦法令ト均シク權利關係ヲ生スル

ハ論ヲ須タサル所ニシテ條約ハ條約自体ニ於テ法
カヲ有スルモノナリ而シテ自國ニ於テ對手國ノ國
家又ハ其ノ臣民ノ權義ニ關シ負フ所ノ義務ハ
相互ノ主義ニ本キタル自然ノ結果ニ過キスシテ自國
又ハ自國臣民ノ權利關係ト同時ニ内國ニ於テ法カヲ
生シ兩者決シテ分離スルモノニ非サルナリ
然ルニ論者アリ曰ク條約ハ條約自体トシテ直ニ自國
又ハ自國臣民ノ權義準則トナルモノニ非ス之ヲ準則トシ
ンニハ更ニ法令ノカヲ待タサルヘカラス是レ條約ノ
性質ヲ解セサルモノナリ法令アルヲ知テ條約アルヲ知

ラサルモノナリ若シ論者ノ如ク自國又ハ自國臣民ノ權利
關係ハ條約ニ依テ生スルモノニ非スシテ唯法令
ニ依テノミ起ルモノトスルトキハ法令ノ及ハサル境
域ニ於テ條約カ自國又ハ自國臣民ニ與ヘタル權利
ハ及テ法令ノ為ニ持殺セラレ、結果ヲ生シ遂ニ
條約締結ノ必要ヲ見サルニ至ルヘシ豈ニ此ノ如キノ理ア
ランヤ抑、自國又ハ自國臣民カ對手國ニ於テ獲得
シタル權利ハ自國法令ノ與ヘタルモノニ非スシテ條
約ノ與ヘタルモノナリ故ニ自國又ハ自國臣民カ對手國
ニ於テ自己ノ權利ヲ使行スルニ條約ニ依テ之ヲ為スヲ

得ルモ決シテ自國ノ法令ニ依テ之ヲ為スヲ得ス強テ
自國ノ法令ニ依テ之ヲ為スモ對手國ニ於テハ之ヲ有効
ト認メサルナリ又其權利ヲ侵害セラレタルトキハ條約
ニ依テ之ヲ争フコトヲ得ルモ決シテ自國ノ法令ニ依
テ救濟ヲ求ムルコトヲ得ス強テ自國ノ法令ニ依
テ之ヲ求ムルモ對手國ニ於テハ之ニ應スルコトヲ得
サルナリ何トナレハ他國ノ法令ヲ遵奉スルノ義務ア
ラサレハナリ

夫レ條約ハ國家ノ意思ニシテ法律命令ト異ナル所ナ
シ唯、意思ノ發動スルニ當テ其ノ踐行ノ方式同シカラサ

ルノミ即チ法律ハ議會ノ決議ヲ要ス命令ハ議會ノ決議ヲ要セ
ス條約ハ對手國主權ト合意ヲ要スルナリ臣民ハ國家ニ絶体的
服從ノ義務アリ故ニ條約ハ條約自体ニ於テ臣民ヲ羈束スル
法カアリ之ヲ公布スルニ於テ臣民ハ直ニ服從ノ義務アルコト猶ホ法
律命令ニ於ケルカ如シ其間毫モ相異ナル所ナキナリ且夫レ
我々民法第一編第一章第二條ニ曰ク外國人ハ法
令又ハ條約ニ禁止アル場合ヲ除ク外私權ヲ享
有スト又第二章第三十六條ニ曰ク外國法人ハ
國ノ行政區劃及商事會社ヲ除ク外其成立ヲ
認許セス但法令又ハ條約ニ依リテ認許セ

ラレタルモノハ制限ニ在ラズト是レ立法者ハ
明ニ條約ノ法令ト並立シテ均シク法カヲ有ス
ルコトヲ認メタルモノナリ何トナレハ條約ハ
法令ヲ以テ施行スルニ非サレハ法カヲ生セス
トスレハ故サテニ條約ノ文字ヲ加フルニ及ハ
ス尊ニ法令ノ文字ニテ足レルヲ以テナリ且條
約ヲ以テ法令ト均シク法カアルコトヲ認メタ
ルハ獨リ我邦ノミニ非ス佛伊白等諸國ニ於テ
モ亦然ナサルハナシ之ヲ要スルニ條約ノ性質
ヨリ論スルモ亦我國法上ヨリ考フルモ條約ハ

法令ト均シク権義ノ關係ヲ規定スルモノタル
コト毫モ疑ヲ容レサルナリ

帝國憲法第十三條ニ曰ク「天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ
議シ及諸般ノ條約ヲ締結ス」ト是レ條約ノ締結
ハ全然天皇ノ大權ニ專屬スルコトヲ規定シ又
ルモノニシテ憲法上他ニ何等ノ制限ヲ受クル
コトナク隨テ締結ニ伴フ所ノ條約施行權ハ自
ラ締結權中ニ包含スルコト當然ノ理又敢テ明
ク之ヲ要セサルナリ何トナレハ條約ヲ批准スル
トキハ國家ハ條約ニ依リ或ル義務ヲ負フモノ

ニシテ之ヲ履行スルノ点ニ於テ臣民ニ遵由ノ
義務ヲ負ハシムルハ勿論自己ノ立法及行政ヲ
拘束シテ自由ノ行動ヲ為スヲ得サレハナリ故
ニ憲法上立法事項ト雖モ條約ニ規定シタルモ
ハ更ニ立法ノ作用ヲ類タスシテ直ニ之ヲ施
行スルヲ得ルナリ若シ立法ノ作用ヲ獨ツモノ
トスレハ此レ自國ノ立法ヲ以テ自由ノ行動ヲ
為シ國家自ラ其ノ義務ヲ沮廢スルモノナリ憲
法上立法事項ノ規定ハ命令ニ對スル防閑ニシ
テ條約(第十三條)ニ對シテハ何等ノ制限ヲ樹ツ

ルモノニ非サルナリ而シテ自國立法作用即チ
法律ヲ以テ條約ヲ變更スルコトヲ得サルハ勿
論條約ト法律ト抵觸スルトキハ條約ハ直ニ法
律ヲ變更スルモノナリ是レ我憲法ハ命令ヲ以
テ法律ヲ變更スルコトヲ得サルヲ制限(第九條)
シタルトモ條約ニ關シテ何等ノ制限ヲ設ケサ
ル所以ナリ

又各國ノ憲法ヲ見ルニ條約ノ締結ニ關シ條約
ノ種類ニ依リ主權者力多少ノ制限ヲ受ケサル
ハナシ即チ或ハ批准以前ニ於テ議會ノ承諾ヲ

經ルヲ要スルモノアリ或ハ條約ヲ施行スルニ
法令ノ力ヲ要スルモノアリ我國ニ在テハ全ク
外ノ制限主義ヲ取ラス條約ノ締結施行一ニ天
皇ノ大權ニ存シ憲法上何等ノ牽制ヲ受ケル所
ナシ即チ天皇ハ立法事項ニ涉ルモノト雖モ條
約上之ヲ規定シ之ヲ施行スルニ於テ曾テ議會
ノ核實ヲ經ルヲ要セス條約ヲ批准シタル後ハ
之ヲ施行スルニ單ニ條約其者トシテ之ヲ公布
スレハ足レリ若シ議會ノ核實ヲ要スルモノト
スレハ是レ自國ノ立法作用ヲ以テ自由ノ行動

ヲ為シ國家ハ自ラ條約上ノ義務ヲ無視スルモ
ノナリ夫レ然リ豫メ議會ノ承諾ヲ經ルヲ要シ
若ハ法令ヲ以テスルニ非サレハ施行ノ効力ナ
シト云フカ如キハ我憲法ノ断シテ斥クル所ナ
リ

又或ル論者ハ云ヘリ立法事項ニ涉ルノ條約ヲ
施行スルニハ立法ノ手續ヲ要ス而シテ議會ハ
自由議決權ヲ有スルカ故ニ施行法律案ヲ否決
若クハ變更スルコトヲ得然レトモ此レ事實上
ノ衝突ニ止マリ復タ憲法ノ関スル所ニ非サル

ナリト其レ然リ豈ニ其レ然ラシヤ國家ハ條約
成立シテ或ル義務ヲ負フトキハ此レ其レ關シ自
國ノ立法ヲ拘束ヒラル、モノニシテ自由ノ行
動ヲ為スヲ得ス故ニ縱令條約ノ施行ハ議會ノ
贊與ヲ要スル國ニ在テモ議會ニ於テ條約施行
法律案ヲ否決變更スルハ國家自ラ自由ノ行動
ヲ為シテ義務ヲ無視スルモノニシテ事實上ノ
衝突ト云フ可カラス況ンヤ此ノ如クシテ施行
法律一旦成立スルモ後日莫ニ自國ノ立法ヲ以
テ之ヲ廢止變更スルコト亦自由ニシテ國家ハ

益自由ノ行動ヲ為スニ至ラン蓋シ議會ノ性質
ヲ要スル國ニ在ラモ國家ハ均シク自己ノ立法
ヲ拘束セウル、モノニシテ立法機關タル議會
ハ決シテ自由ノ議決ヲ為スヲ得ス施行法律ヲ
否決變更スルハ斷シテ議會ノ為シ得サル能力
ナリ若シ之ヲ為スニ於テハ於レ妄動ナリ濫行
ナリ事實上ノ衝突ナルモノハ自由ノ能力ヲ有
スル者ノ行為相一致セサル場合ニ生スルモノ
ナリ

帝國憲法第十三條ニ付各國憲法參照

獨乙 帝國一千八百七十一年四月十六日發布憲

法第十一條

聯邦首長ノ權ハ獨逸皇帝ノ名義ヲ以テ普魯西
王之ヲ有ス皇帝ハ萬國公法上帝國ヲ代表シ帝
國ノ名義ヲ以テ戰ヲ宣ヘ和ヲ決シ外國ト同盟
及其他ノ條約ヲ結ビ國使ヲ任遣シ及外國ノ使
節ヲ受ク

外寇聯邦ノ領地及其ノ沿岸ヲ侵ス時機ノ外帝
國ノ名義ヲ以テ戰ヲ宣フルニハ聯邦會議ノ承

認らば

外國トノ條約ニシテ本法第四條ニ從ヒ帝國立法ノ範圍ニ屬スルモノハ其ノ締結ニ付キ聯邦會議ノ同意其ノ効力ニ付キ帝國議會ノ承認ヲ要ス

奧國 奧國一千八百六十七年十二月二十一日憲法第

六條

皇帝ハ國家條約ヲ締結ス、商事條約ニシテ帝國ノ全部若クハ其ノ一部ニ負擔ヲ起シ又ハ國民ニ義務ヲ課スヘキモノハ効力ノ爲メ帝國議

會ノ承認ヲ要ス

同法第十一條

帝國議會ハ商事條約及帝國ノ全部若クハ其ノ一部ニ負擔ヲ起シ若クハ國民ニ義務ヲ課シ又ハ領地ノ變動ノ來タスヘキ國家條約ヲ審査及承認スルノ權アリ

佛國 佛國一千八百七十五年七月十六日憲法第八條
共和大統領ハ條約ヲ商議シ及批准ス、共和大統領ハ國ノ利害及安寧ノ爲メ必要ト認ムルトキハ議院ニ通知ヲ爲スヘシ、講和、通商、國ノ費途

ヲ起スハキ条約並ニ外國ニ於ケル佛人ノ所有
權及身分ニ関スル条約ハ兩院ノ議決ヲ經ルニ
非レハ確定セズ土地ノ讓与交換併合ハ法律ニ
依ルニ非レハ行フコトヲ得ス

伊國伊國一千八百四十八年三月四日發布憲法第五

條

行政ノ權ハ國王一人ニ屬ス國王ハ國ノ元首ニ
シテ海陸軍ヲ指揮シ戰書ヲ授シ和親同盟商事
等ノ条約ヲ結フ然レトモ國益及國安ニ関スル
条約ハ預メ兩院ニ報道シ且理由ヲ告グヘシ國

費ヲ要シ若クハ國疆ノ變更ニ関スル条約ハ兩
院ノ承認ヲ得サレハ其ノ効力ヲ有セス

丁抹 丁抹國憲法第十八條

國王ハ戰ヲ宣ヘ和ヲ決シ及同盟商事ノ条約ヲ
結フ然レトモ兩院ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ土
地ノ一部ヲ割キ及現行ノ法規ヲ變更スヘキ条
約ヲ結フコトヲ得ス

瑞典 瑞典憲法第十二條

國王ハ前條ニ基キ國務兼外務宰相及內閣ノ議
ヲ聽キタル後外國ト盟約及和親ノ条約ヲ結フ

コトヲ得

諾威

諾威國憲法第二十六條

國王ハ軍隊ヲ召集シ戰ヲ宣シ和ヲ講シ同盟ヲ
結フノ權並ニ外交官ヲ派遣シ及外國々使ヲ受
クルノ權ヲ有ス

西班牙

西班牙國憲法第五十五條

國王ハ特別法ニ依リ左ノ權ヲ有ス第一國土ノ
一部ヲ賣却讓与若クハ交換スルコト第二外國
ノ領地ヲ本國ニ合併スルコト第三國內ニ外國
兵ヲ駐在ヲ認許スルコト第四講和通商及外國ニ

助方ヲ約スル條約並ニ本國人ニ義務ヲ課スヘ
キ條約ヲ批准スルコト(如何ナル場合トモ
秘密約款ハ條約ノ公款ニ抵觸スルヲ得ス)第五
讓位

葡國葡萄牙憲法第七十五條

國王ハ行政權ノ首長ニシテ執政官ニ因リ之ヲ
行フ行政首長ノ職掌ハ大約左ノ如シ(中畧)第八
攻守同盟救助通商ノ條約ヲ行フ事國ノ利害安
寧ノ必要ナルトキハ締結ノ後之ヲ議會ニ通告
スヘシ平時ニ於テ結ヒタル條約ニシテ王國所

屬地、讓与若クハ其ノ境域変更ニ関スルモ、
ハ議會、承諾ヲ得タル後ニ非レハ之ヲ施行ス
ルヲ得ス

同國憲法改定法第十條
凡ソ外國ト結フ諸條約ハ其批准前ニ議會、秘
密會議ノ認諾ヲ受クハシ憲法第七十五條第八
項第十四項ヲ改正スルコト如斯

荷蘭 荷蘭憲法第五十七條

國王ハ和議及其他ノ條約ヲ批准ス國王ハ國家
ノ利害安寧ノ爲ニ必要ト認ムル片ハ即時右條

約ヲ議會ニ通告ス歐洲内若クハ他洲ニ於テ王
國所屬地ノ局部ヲ讓渡シ又ハ法規ノ修正ニ関
スル條約ハ議會ノ認可ヲ得タル後ニ非サレ
ハ國王之ヲ批准スルヲ得ス

白耳義 白耳義憲法第六十八條

國王ハ海陸軍ヲ指揮シ戰ヲ宣告シ平和同盟及
商事ノ條約ヲ結フ
商事ノ條約及國費ヲ要スルキ條約若クハ各國
國民ニ係カル條約ハ議會ノ承認ヲ得タル後ニ
非サレハ其ノ効力ヲ有セス

ルキセンブルク憲法第三十七條

大公ハ陸海軍ヲ統督シ戰ヲ宣シ和ヲ議ス國ノ利害安寧ノ爲必要ト認ムルトキハ適當ノ理由ヲ添ヘ議院ニ通知スヘシ
通商條約並ニ國ノ負擔ヲ起シ若クハ本國人民ニ義務ヲ課スル條約及一般ニ法律ニ非レハ規定スルヲ得サル事件ニ関スル條約ハ議院ノ承諾ヲ得ルニ非レハ効力ヲ有セス土地ノ讓与交換併合ハ法律ニ依ルニ非レハ之ヲ行フヲ得ス何レノ場合タリトモ祕約款ハ公款ニ抵觸ス

ハカラス

ゼルビエン 憲法第八條

君主ハ外交上國ヲ代表シ及諸外國ト條約ヲ結フ然レトモ其執行ノ爲メ國庫ノ負擔ヲ起シ若クハ既定ノ法律ヲ變更シ又ハ公私權ニ及涉スルモノハ民會ノ承諾ヲ要ス

希臘 憲法第三十二條

國王ハ國ノ元首ニシテ陸海軍ヲ統督シ戰ヲ宣シ講和同盟及通商條約ヲ結フ國王ハ國ノ利害安寧ノ爲メ必要ト認ムルトキハ必要ノ理由ヲ

添、議院ニ通知ヲ為スヘシ然レトモ通商条約
及其他ノ条約ニシテ此ノ憲法条規ニ從ヒ法律
ノ制裁ヲ要スル讓与ニ関スルモノ又ハ本國人
ヲ拘束スルモノハ議院ノ承諾ヲ得タル後ニ非
レハ効力ヲ有セス

北米合衆國 北米合衆國 一千七百八十七年十二月十七日

憲法第二條

大統領ハ上院ノ協賛ニ依リ及其ノ協賛ヲ以テ
条約ヲ締結スルノ權ヲ有ス但上院出席議員三
分ニ同意ヲ得ルヲ要ス

シテ
ブラジリエニ憲法第二百二條

君主ハ行政權ノ首長ニシテ國務大臣ノ補弼ニ
因リテ之ヲ行フ君主ノ職權ハ左ノ如シ
ハ、攻守同盟救助通商ノ条約ヲ為ス國ノ利害
安寧ノ為メ必要ト認ムルトキハ後キ國會ニ通
知スヘシ帝國ノ領分若クハ帝國ノ占有權ノ讓
與若クハ交換ヲ包含スルトキハ國會ノ協賛ヲ
經サル前ニ之ヲ批准スルヲ得ス

普魯西

普魯西 一千八百八十五年一月三十一日發布憲
法第四十八條

國王ハ戰ヲ宣ヘ和ヲ決シ及具他ノ條約ヲ爲ス
ノ權ヲ有ス高事條約又ハ國家ニ負擔國民ニ義
務ヲ荷スヘキ條約ニ在テハ其効力ニ付キ兩院
ノ悞贊ヲ要ス

ウヰルデンベルク王國一千八百十九年九月二
十五日發布憲法

國王ハ國家ヲ總テノ關係ニ於テ外國ニ對シ代
表ス然レトモ議士ノ承諾ナケレハ外國トノ條
約ニ因テ國ノ領分及國ノ所有物ヲ讓与スルヲ
得ス王國及其臣民ノ新負擔ト爲ルヘキ事ヲ諾

シ又ハ國法ヲ變更若クハ廢止スルヲ得ス國民
ノ權利ニ係ルヘキ義務ヲ約スルコトヲ得ス殊
ニ新ニ法律ヲ制定ヲ要スヘキ高事條約及獨乙
以外ノ戰爭ニ於テ王國ノ軍兵ヲ使用スル助勢
條約ヲ結フコトヲ得ス

ウヰルデンブルグ大公國一千八百五十二年十一月

月二十二日發布改定憲法第六條

大公ハ外部ニ對シ大公國ヲ代表ス大公ハ他國
ト條約ヲ結フ但シ左ノ場合ニ在テハ國會ノ悞
贊若クハ認許ヲ要ス

- (イ) 憲法上國會ノ恢復ヲ要セスシテ政府ノ施行スヘカラサルノ事項ニ関スル條約
- (ロ) 商事航海及非對等條約
- (ハ) 特ニ國民ニ負擔ヲ起スヘキ條約

ブラウンシュワイヒ
月十二日發布憲法

公ハ(独乙同盟及)他ノ國家ニ對スル總テノ關係ニ於テ國ヲ代表ス

公ハ使節ヲ命ジ條約ヲ結ヒ公國ノ為ニ權利ヲ獲得ス又候國ニ條約ノ義務ヲ盡スノ義務ヲ負

ハシム

同法第八條

斯ノ如キ條約ハ可成速力ニ之ヲ議會ニ通告スヘシ

其ノ施行ニ必要ナル方便ハ議會ノ承認ヲ要ス

條約ノ為ニ新法律ノ發布又ハ現行法律ノ廢止若クハ變更ヲ要スルトキハ憲法ニ依準スル議會ノ参力ヲ要ス

アンハルト
アンハルト公國一千八百五十九年八月三十一日發布憲法第十九條

朕ハ新ニ朕カ臣民ノ負担ヲ起スヘキ条約ノ締結ニ就テハ朕カ議士ノ協賛ヲ待ツ

シエワルツブルグ
ワグンデルスハウゼン

シエワルツブルグワグンデルスハウゼン侯國一

千八百五十七年七月八日發布憲法第八條

侯ハ國家ノ首長ナリ侯ハ國權ヲ總攬ス而シテ

其施行ニ就テ議會ノ参カヲ要スルハ現行憲法

ニ於テ明カニ議會ニ委子ラレタル部分ト

ス

同法第四十二條

國家ノ負担ヲ起シ又ハ國民ニ義務ヲ荷スヘキ

條約ハ議會ノ協賛ヲ要ス

ワルデツク
侯國

ワルデツク侯國一千八百五十二年八月十七日

發布憲法第十一條

侯ハ外國ニ對シテ國家ヲ代表シ及外國政府ト

條約ヲ結フ

國家ノ負担ヲ起シ國民ニ義務ヲ荷スヘキ條約

ハ其ノ効力ニ就キ議會ノ協賛ヲ要ス

ロイス侯國

ロイス侯國一千八百五十二年四月十四日發布

改定憲法第六十九條

外國ニ對スル總テノ關係ニ於テ國家ヲ代表スル者ハ候一人トス

同法第七十條

然レ凡前以テ人民代議ノ協賛ヲ得ルニ非サレハ外國トノ條約ニ因テ國ノ領分及國ノ所有ノ一部ヲ讓渡シ國又ハ國民ノ負擔ト高ルヘキ事ヲ諾ムルヲ得ス又國法ヲ廢止變更シ若クハ國民ノ權利ニ係ルヘキ義務ヲ約スルコトヲ得ス

サキニヨアル
タコトノ公國

廿キセニコブルグゴータ公國一千八百五十二

平三月三日發布憲法第百二十八條

候ハ憲法ノ定ムル所ニ從テ執行ノ權ヲ有ス殊ニ法律ノ施行ニ必要ナル制令ヲ發ス(中畧)及外國ト條約ヲ結フ(中畧)條約ニシテ新ニ國家又ハ國民ニ負擔ヲ荷シ又ハ法律ノ變更若クハ廢止ヲ來スヘキモノハ有効ナル締結ノ為メ議會ノ協賛ヲ要ス斯ノ如キ條約ハ之ヲ法律トシテ公布スヘシ

自由都府
ハンブルグ

自由都府ハンブルグ一千八百七十九年十月十三日發布憲法第二十二條

自由都府
リエベツク

元老院ハ國家ヲ獨逸帝國及外國ニ對スル關係ニ於テ代表ス。元老院ハ國ノ内外務ヲ掌トリ國使及聯邦會議ノ議負ヲ派遣ス。元老院ハ條約ヲ結ブ、但シ其ノ確定前ニ都人ノ同意ヲ要ス。同法第六十一條
立法ハ元老院ト都人トノ一致決議ヲ以テス。同法第六十二條
立法ノ課目ハ(中畧)條約ノ確認トス。自由都府リエベツク、一千八百五十七年四月五日發布憲法第十八條

本法ニ於テ都民全体(第二十條乃至五十二條)又ハ都民總代(第五十三條乃至七十二條)ノ参力又ハ協賛ヲ指定セサル限りニ於テ總テノ國務ハ一ニ元老院ニ屬ス。同法第五十條
都民ノ承認ヲ要スヘキモノ左ノ如シ
(上畧)第三、法律並ニ商事ニ關スル命令ノ發布釋義變更廢止
(上畧)第九、商事航海又ハ都民ノ承認ヲ要スヘキ事項ニ關スル條約ノ締結

自由都府
ブレームン

自由都府ブレームン一千八百七十五年十一月
十七日發布憲法第五十六條

憲法上特別ノ規程ナキ限りハ元老院ト都民ト
共同ニ國務ヲ司ル但シ國務全体ノ指揮監督並
ニ執行ノ權ハ憲法ノ定ムル所ニ從テ元老院之
ヲ有ス

同法第五十七條

憲法ニ依リブレームン國政府トシテ元老院
ノ權限ニ屬スルモノ左ノ如シ

(一) 外務ノ指揮、總テノ使節及領事ノ任命及

三

訓令、國ノ名義ニ於テ條約ヲ執行スル事

同法第五十八條

元老院ト都民トノ協力ニ屬スヘキ事項ハ左ノ

如シ

(1) 元老院一箇ニテ處分スヘカラサル旨趣ヲ
有スル條約ノ承認



